



College Women's Association of Japan

2022年5月吉日

関係各位

拝啓

日頃より一般社団法人CWAJの活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

CWAJでは2023年度海外留学大学院女子奨学金、外国人留学生大学院女子奨学金、視覚障害学生奨学金、視覚障害学生海外留学奨学金の受給者を募集します。

ポスターを同封いたしますので学生の方たちに周知のほどよろしくお願いいいたします。
なお、海外留学大学院女子奨学金に関しましては、現地に渡航し対面で授業を受けることが必須となっており、日本国内に在住しながらのオンライン受講は留学と認めておりませんことをご承知おきください。

2023年度CWAJ奨学金の出願書類は、7月1日以降CWAJウェブサイト
(<https://cwaj.org>) からダウンロードしていただくことになります。
(オンライン出願のみになります)

CWAJ奨学生は、年間一定額を超える他機関からの奨学金を重複して受給することはできません。他機関からの奨学金受給限度額は下記の通りです。

- 海外留学大学院女子奨学金 年間 200 万円
- 外国人留学生大学院女子奨学金 年間 150 万円
- 視覚障害学生海外留学奨学金 年間 200 万円
- 視覚障害学生奨学金 年間 100 万円

昨年度のCWAJ活動報告書を同封いたしますのでご高覧ください。
その他ご不明の点などございましたら、遠慮なくお問い合わせください。

CWAJ奨学金委員会：scholarshipinquiry@cwaj.org

敬具

CWAJ奨学金委員会

奨学金担当役員

イーマン・ロー

クリスティン・ヒューズ

安川 みさ

College Women's Association of Japan

CWAJ website: <https://cwaj.org>

CWAJ Scholarship Committee
CWAJ Center

Kami-Osaki 2-24-13-703, Shinagawa-ku
Tokyo, Japan 141-0021

CWAJ 奨学金委員会
CWAJ センター

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-24-13-703
scholarshipinquiry@cwaj.org



College Women's Association of Japan

CWAJ Scholarship Program

2023 年度 CWAJ 奨学金

~ Women Supporting Women ~

The **College Women's Association of Japan (CWAJ)**,

a volunteer organization of international women dedicated to encouraging educational and cultural exchange, has supported hundreds of students since 1949.

In 2023, CWAJ will award scholarships in the following categories:

CWAJ Graduate Scholarship for Japanese Women to Study Abroad

and

CWAJ *Cartier* Scholarship

CWAJ 海外留学大学院女子奨学金

Amount: ¥3.0 million

支給額: 300 万円

For Japanese national or special permanent resident women to study for a graduate degree taught in English at a university or research institution outside Japan.

Applications must be in English.

Application Period:
October 17 - 24, 2022

出願期間: 2022 年 10 月 17 日 - 24 日

CWAJ Graduate Scholarship for Non-Japanese Women to Study in Japan

CWAJ 外国人留学生大学院女子奨学金

Amount: ¥2.0 million

支給額: 200 万円

For non-Japanese women to study for a doctoral degree at a Japanese university or research institution.

Applications must be in English.

Application Period:
October 03 - 10, 2022

出願期間: 2022 年 10 月 03 日 - 10 日

CWAJ Scholarship for the Visually Impaired to Study Abroad

CWAJ 視覚障害学生海外留学奨学金

Amount: ¥3.0 million

支給額: 300 万円

日本国籍または特別永住権を持つ

視覚障害のある男女で、

海外の大学・大学院等へ留学を希望する者

出願期間: 2022 年 10 月 31 日 - 11 月 10 日

CWAJ Scholarship for the Visually Impaired to Study in Japan

CWAJ 視覚障害学生奨学金

amount: ¥1.5 million

支給額: 150 万円

日本国籍をまたは特別永住権持つ

視覚障害のある男女で、

日本の大学・大学院で勉学を希望する者

出願期間: 2022 年 10 月 31 日 - 11 月 10 日

All applicants must reside in Japan. No applications will be accepted from abroad.

応募者は日本に在住していること。海外からは応募できません。

For more information visit our website: <https://cwaj.org>

詳しい内容については <https://cwaj.org> の奨学金のページにアクセスして下さい。





COLLEGE WOMEN'S
ASSOCIATION OF JAPAN

2021 - 2022 Annual Report

MARCH 2022



つなぐー視覚に障害のある人々を支えて

CWAJの活動は三本の柱で成り立っています。**CWAJ奨学金と教育プログラム**、それらを資金面で支える**CWAJ現代版画展**です。この三本柱のすべてに視覚障害者向けのプログラムが含まれ、しかもそれを相互に連携させているのは、当会のユニークな特徴といえるでしょう。「CWAJ視覚障害学生奨学金（SVI）」と「視覚障害者との交流会（VVI）」、そして版画展の重要な一画を占める「ハンズ・オン・アート」です。

CWAJ視覚障害学生奨学金は、日本で初めての視覚障害者だけを対象とした奨学金として1978年に誕生し、これまでに国内外の大学と院で学ぶ通算78名の学生を支援してきました。当奨学金でロースクールを卒業し日本で2人目の全盲の弁護士となった大胡田誠さんを始め、その多くが国内や世界でかけがえのない仕事に従事しています。2021年には2008年奨学生の石浦智美さんがパラ競泳選手として東京パラリンピックに出場し、3種目で見事入賞を果たしました。同大会に先立っては、同じく元奨学生の御園政光さんと山田翔登さんが聖火ランナーに選ばれました。

奨学生の多くは卒業後長い年月がたってもCWAJとの温かい繋がりを保っていますが、なかでも特筆すべきは、3人の元SVI奨学生、安原理恵（2007）、半田こづえ（2007）、中瀬恵里（2004）が現在ではCWAJ会員となって運営に携わっていることです。2021年、安原は多忙な仕事のかたわら、視覚障害者向けのVVIニューズレター編集長として数々の読み応えのある記事を執筆しました。障害者の美術鑑賞の専門家であり明治学院大学講師として視覚障害教育総論を教える半田は、2022年からVVI委員長として、また中瀬は他の二人とともに、視覚障害者向けの校正係として力を発揮しています。

現在半田がパートナーと共に委員長を務める**VVIの活動**は、本紙4面で詳しく紹介されています。2021年12月の「英会話の集い」では、上記の石浦智美さんをゲストに迎えて、オンラインでパラリンピックの体験を語ってもらいました。石浦さんは、先天性緑内障の治療のために競技に打ち込めない時代があったが思い切って手術を決断しパラを目指したこと、コロナ禍で自分のレベルを確認できずに苦しんだこと、パリ大会への意欲などを語り、参加者を感動させました。2022年3月21日にはVVIの主催で、やはり視覚に障害をもちながら世界的ヴァイオリニストとなった川島成道さんのご厚意により、自由学園明日館で奨学金のためのチャリティーコンサートを開催します。このコンサートの純益はすべて奨学金と教育プログラムに充てられます。

CWAJ現代版画展で毎年行われている「ハンズ・オン・アート」（視覚障害者と楽しむアート）は、展示中の版画作品数点から立体コピーを作成し、点字のように指先で触れながら解説を聞いて楽しんでいただくプログラムです。コロナ禍で版画展は2年続けてオンライン開催となりましたが、「ハンズ・オン・アート」は担当者の創意工夫で、オンラインによるアーティストトークに発展しました。今回取り上げた作品は宮山加代子さんの美しい木版画「マグノリアー3」です。視覚に障害のある参加者にはあらかじめ立体コピーと、宮山さんの発案でマグノリアの香りをしみ込ませた和紙の花弁を郵送し、手で触れながら聞けるようにしました。画題の花を間近に見るために泰山木（マグノリア）の高い枝までハシゴをかけたことなど、花の美を追求する宮山さんの制作秘話に、多数の参加者が熱心に耳を傾けました。

コロナ禍で視覚障害者が特に不便を強いられる現在、さまざまな体験を共有することで心の視野がいつそう広がると信じて、CWAJはこれからも活動を続けていきます。

ご支援・ご協力をお願い

CWAJは年間を通して、教育・奨学金プログラムへのご寄付を受け付けております。皆さまからのご支援が国内外で勉学を志す女性や視覚障害者達の夢をかなえ、社会に大きな力を与えています。

2021年にはコロナ禍への対応として看護学生奨学金を新たに立ち上げ、会の使命をさらに推し進めることができました。また、NBAリーグで活躍するプロバスケットプレイヤーの八村塁選手と大正製薬株式会社様からはジョイントで、CWAJ奨学金に多大なご寄付をいただきました！



「僕の人生において、女性：母親、祖母、妹は非常に重要な存在であり、今日僕があるのは僕を支えてくれた女性のお蔭であると感謝しています。過去に母親が直面した困難な状況から、もっと女性が活躍する機会があればと考えていました。この度、CWAJが取り組まれている女性たちを支援する活動を知り、ぜひご協力させていただきたいと考え、大正製薬さんと共に支援させて頂くこととなりました。多くの女性達が夢や目標に向かって進んでいける手助けになればと思っています。」（八村塁選手）

CWAJへのご寄付は国際交流基金の「特定寄付金制度」を活用して、税制上の優遇措置が受けられます。ご寄付に関する詳細はメールでお問合せください。donations@cwaj.org

お知らせ

第65回 CWAJ現代版画展

2022年10月19日(水)～23日(日)

ヒルサイドフォーラム
(代官山 ヒルサイドテラスF棟)

オンラインギャラリー

同時期に開催予定
<https://cwaj-gallery.jp/>



- 写真左から；
- ・2021年版画展委員会賞 野嶋革「Leaves 02: homage to JS」
 - ・特別企画 「篠田桃紅とCWAJ」より、2013年版画展オープニングレセプションでの篠田桃紅氏
 - ・学生支援プロジェクトの寄贈作品販売

CWAJ現代版画展

第64回現代版画展 —可能性を模索して—

2020年に初めて試みたオンライン展の成功を受けて、2021年は当初、代官山ヒルサイドフォーラムとオンライン展の二本立てでの開催を予定していました。コロナ第5波の到来で会場での展示は中止となりましたが、両方の準備を進めていたおかげでスムーズにオンライン開催に絞ることができたのは幸いでした。

2021年は前年の経験をふまえて応募をオンラインでの受付とし、選考委員による選考をすべて画像データで行うことになりました。400点以上のデータを受け取って処理するのは大変でしたが、担当チームの持ち前のチャレンジ精神と経験豊かな選考委員のご協力により、デジタル画像による作品審査は滞りなく行われ、招待作品を含めた202点を展示・販売することができました。販売も好調で、売上げの約半分が海外からの注文でした。

第64回CWAJ現代版画展に加わったのは、2021年3月に107歳で逝去された篠田桃紅氏を偲ぶ特別企画『篠田桃紅とCWAJ』、およびコロナ禍で苦境にある学生のために招待作家からご寄贈いただいた小作品による、寄贈作品特別販売会です。日本を代表する芸術家、故篠田桃紅氏は、女性の自立と社会進出を推し進めてきたCWAJの真の理解者でもありました。

コロナ禍における学生支援プロジェクト： 寄贈作品特別販売会

コロナ禍で医療体制が逼迫する中、感染予防のためにアルバイトも禁じられ経済的困難に直面した看護学生を支援しようと、CWAJでは2020年に「看護学生奨学金」を立ち上げました。この奨学金を資金面で支えるために企画されたのが「寄贈作品特別販売会」です。



第64回CWAJ現代版画展の招待作家に呼びかけたところ、47名もの方が即座に賛同して、200点以上の小作品を快くご寄贈くださいました。オンライン販売のみという予想外の困難にもかかわらず、販売価格の大半が1万円ということもあって、小さくても完成された版画の美しさに多くのお客様が魅了され、

同奨学金2口分にあたる100万円を上回る資金を調達することができました。

当プロジェクトには、質の高い作品を低価格で提供することで多くのお客様を喜ばせ、版画作品を購入したことがない方にも第一歩になるようにという作家の皆様の願いも込められていました。その通りの結果となったことは感謝に堪えません。

1966年の初出品以来CWAJへの出品は50回を数え、節々でスピーチをお願いしたり特別展を開催したりと、多大なご支援をいただけてきました。今回の特別企画では、篠田氏とCWAJの交流を振り返る展示とご遺族の協力による作品の抽選販売を行ったほか、『篠田桃紅とCWAJ：篠田桃紅を偲んで』というビデオを制作して、CWAJへの想いやご自身の人生や作品についての率直なコメントを紹介しました。当版画展の歴史を知るうえでも貴重な資料となっています。

例年、版画展会場ではガイドツアーを行っています。オンライン展でも、出品作家の廣田雷風、市野悠、門馬英美、大森弘之、関野洋作、園山晴巳各氏に焦点を当て、それぞれ異なる版種の製作過程を日英両語のビデオに収めたYouTube『版画のマジック』を提供しました。動画はアーティストや会員によってSNSでも拡散されて反響を呼びました。



ビデオ「篠田桃紅とCWAJ：
篠田桃紅を偲んで」は
こちらのQRコードから



ビデオ「版画のマジック」
はこちらのQRコードから

CWAJ ヤング・プリントメーカー賞 (YPA)

CWAJ現代版画展50周年を迎えた2005年に、版画界への謝意と未来を担う若い版画家への期待をこめて、ヤング・プリントメーカー賞を創設しました。応募資格があるのは、前年に版画学会主催の全国大学版画展で受賞した学生で、毎年1名に賞金50万円を授与しています。受賞者にはその年のCWAJ版画展で作品を展示し、さらに3年後の版画展でも新作を発表する機会が与えられます。これまでの受賞者の多くが新進版画家として着実に歩を進めています。2021年の第64回CWAJ現代版画展オンラインギャラリーでは、下記の2名の作品を展示しました。

2021年YPA受賞者

大山 葵那

東京造形大学
(2021年3月卒業)

「あさ、よる、あさ」



2018年YPA受賞者

西村 涼

京都市立芸術大学大学院
(2020年卒業)

「私の中の欠片」



2021年CWAJ奨学金

2021-2022年のCWAJ奨学金は次の10名に支給しました。



奨学金プログラム～継続とイノベーション

奨学金支給はCWAJ活動の柱として長年続けられてきました。2021年度も創設から50年となる海外留学大学院女子奨学金 (SA) や視覚障害学生奨学金 (SVI) を支給するとともに、コロナ禍への対応として2020年に立ち上げたCWAJ看護学生支援プロジェクト (NS) が継続されました。1年休止した外国人留学生大学院女子奨学金 (NJG) も再開し、40周年を迎えます。

感染予防の観点から選考は全てウェブ会議となりましたが、対面での話し合いができない不自由さの反面、海外在住の会員も選考に参加できるようになり、さらに広い視点から選考を進められるメリットがありました。また、昨年からは応募受付のオンライン化に取り組み、2023年度には、ほとんどの奨学金がオンライン出願に移行する予定です。

CWAJの進取の気性は教育、環境、人道支援などの分野で国際協力の道に進んだ奨学生たちと共通しています。視覚に障害がありながらJICAパラグアイ事務所に出任中の福地健太郎 (2011 SVI)、ポツワナでJICAと協力して活動した日本森林技術協会の高橋美佐紀 (2018 SA)、UNICEF本部でアフガニスタンでの人道支援にあっている田山恵理 (2018 SA) のように、多くの奨学生が世界を舞台に活躍しています。また嬉しいことに最近では、CWAJの精神を受け継いだ元奨学生が、奨学金で培った経験を社会に還元したいと正会員として入会することが増えています。



ヤング・アンバサダー募集！

このたびCWAJは28歳以下の入会希望者を対象に、ヤング・アンバサダーズというプロジェクトを開始しました。ヤング・アンバサダーは、個人のSNSにCWAJをタグ付けすることで、大学や一般のコミュニティーにCWAJのジュニアメンバーシップ制度を広め、また個人のさまざまなネットワークを通じてCWAJの活動を宣伝していただくプログラムです。広報活動のリターンとして、履歴書にその活動を明記し、CWAJから活動に合わせた推薦状を受け取ることができるほか、CWAJジュニアメンバーの年会費5,000円を2,500円に減額いたします。

ヤング・アンバサダーは就活／キャリアプランニング中の皆さんの年代をターゲットとしています。奨学金とアートの分野で長年活動を続けてきた国際色豊かな団体、一般社団法人CWAJで、必ずや実り多い体験を重ねていただけることでしょう。CWAJヤング・アンバサダーにご興味のある方、ふさわしい方をご存じの方は、vicepresident@cwaj.org までご連絡ください。

CWAJ海外留学文化交流大学院女子奨学金 (SA)

(この奨学金は国際交流基金の支援を受けています)

1名 支給額 300万円

會根 麻里 (そね まり)

ルーヴェン・カトリック大学 (ベルギー王国) 心理学 修士課程

CWAJ海外留学大学院女子奨学金 (SA)

1名 支給額 300万円

末村 萌 (すえむら もえ)

コロラド大学ボルダー校 (米国) 航空宇宙工学 修士課程

CWAJ視覚障害学生奨学金 (SVI-SJ)

2名 支給額 各150万円

菅田 利佳 (すがた りか)

東京大学教育学部3年

山田 翔登 (やまだ しょうと)

同志社大学法学部法律学科4年

CWAJ看護学生奨学金 (NS)

6名 支給額 各50万円

早川 明花 (はやかわ めいか)

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科3年

柿本 真尚 (かきもと まなか)

国立看護大学校看護学部3年

小椋 玲美 (こむく れみ)

埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科3年

松下 らむ (まつした らむ)

聖路加国際大学看護学部3年

大山 天良 (おおやま たから)

横浜市立大学医学部看護学科3年

山口 優 (やまぐち ゆう)

国立看護大学校看護学部4年



CWAJとは

@TheCWAJ

@cwaj_japan

cwaj.org

一般社団法人CWAJ (カレッジ・ウイメンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン) は、「女性が女性を支える」という理念のもと、CWAJ奨学金、CWAJ現代版画展、視覚障害者や児童養護施設の子どものための英語教育など、さまざまなプログラムを通じて教育・文化の推進に努めている非営利ボランティア団体です。約25か国から集まった約400名の女性 (LGBT+を含む) 会員が、無償のボランティアとして幅広い交流の中で友情を深め、楽しみながら教育・文化活動を行っています。1972年に創設されたCWAJ奨学金は、国内外の女子大学院生・視覚障害男女学生などのべ約900名に支給され、各界のリーダーを育ててきました。また、2021年度からはコロナ禍への取り組みとしてCWAJ看護学生奨学金を立ち上げるなど、常に社会のニーズを見据えて活動しています。ボランティア活動は外国人と日本人がペアを組んで、原則として英語で行います。CWAJ入会についてのお問合せは membership@cwaj.org へどうぞ。



コミュニティ・プログラム

視覚障害者との交流会（VVI）

VVIは、視覚障害のある人たちに、英語と日本語による学びと楽しみの機会を提供しています。2021年も新型コロナウイルス感染症による影響を受けましたが、多くのプログラムやイベントを対面やオンラインで開催することができました。「英会話の集い(ECG)」は視覚障害のある参加者とCWAJ会員がリラックスした雰囲気の中で英語で話し合う催しです。今年度はオンラインで2度開催されました。オンライン開催の利点は、会場に来られない場所に住んでいる人たちも自宅から参加できること、そして、海外から魅力的なスピーカーをお招きできることです。

3月のECGは春をテーマに開催され、ゲストスピーカーには、ワシントン在住のジャーナリスト、ダイアナ・パーセルさんと、NHKの語学番組に出演するなど多方面で活躍している日本在住のイラン人女性ナヒド・ヨシナリさんを招きました。12月のECGには、2008年のSVI国内奨学生で、東京パラ競泳に出場された石浦智美さんを迎え、本番を迎えるまでの日々や大会当日の様子についてお話を伺いました。

また、特別企画として7月に、八代目橋屋圓太郎師匠による「落語の会」をオンラインで行いました。視覚障害者20名・CWAJ会員65名が参加し、落語「厩火事」を楽しんだ後、圓太郎師匠を交えて英語で落語の世界を深めるひと時を持ちました。VVIは教育に関わるミッションとして、日本視覚障害者職能開発センターで英語の授業を行っています。これは、成人の視覚障害者が就業に役立つ英語力を身につけるためのもので、感染症が落ち着いた4月から5月と10月から1月まで対面で授業を行うことができました。また、筑波大学附属視覚特別支援学校高等部の生徒が英検試験に備えるための模擬インタビューをオンラインで実施したり、CWAJの活動を紹介する会報を発行し、電子媒体と点字で視覚障害者に届けました。

外国人留学生との交流会（FSC）

FSCは、2020年11月以来、オンラインで「プレゼンテーション・アンド・トーク」を実施しています。FSCの留学生、元FSCの留学生が自分の国を紹介する催しです。2021年のプレゼンテーション・アンド・トークは日本ばかりでなく、海外からの出席者やプレゼンターもありました。また、海外ですでに仕事についたり、大学で研究を続けたりしている元FSCの留学生とオンラインで交流する良い機会ともなりました。またFSCのメンターによる、留学生のための少人数のプログラムも企画され、夏には歌舞伎鑑賞、秋にはウォーキングのプログラムを実施しました。

子供のための英語支援の会（EOC）

CWAJは子どものための英語教育を長きにわたり続けてきました。当初は海外から帰国した日本人児童が英語力を保つための教室を主催していましたが、2018年からは「楽しく英語を」の目標のもと、養護施設、特に西東京市の聖ヨゼフホームに暮らす子ども達への英語指導に取り組んでいます。これは子ども達の将来に貢献する活動だと確信しています。

残念ながら現在は直接訪問の活動は休止状態ですが、定期的にクリスマスやイースター、バレンタインデー等の行事にあわせて、外で自由に遊べない子ども達に英語の本やギフト、ゲーム等を送っています。これで以前に覚えた英語の言葉を思い出してくれればと願っています。12月と1月にはEOCのボランティアが数人集まり、プレゼントの袋詰めをしました。再び子ども達と英語で遊べる日を待ち望んでいます。

カルチュラル・プログラム

月例会プログラム

2020年春から導入されたバーチャル方式は、予想を超えた広がりを見せています。遠方から講師を招くことが可能となり、プログラムの内容も大きく広がりました。1月はジェンダー研究の第一人者として知られる上野千鶴子氏が日本のジェンダーギャップを解説、2月は自らも車椅子ユーザーであるマーク・ブックマン氏が日本の障害者向けアクセシビリティについて講演し、3月は梅若マドレーヌ氏と長女のソラヤ氏が日本の能の世界を紹介しました。4月はフィナンシャル・タイムズ紙東京支局長のロビン・ハーディング氏がソーシャルメディアの進展で新聞が直面している課題について講演、6月は、アリス・ゴードンカー氏が「ステージマカ芸術か」というタイトルで、日本の刺青について再考する機会を与えてくれました。9月はテキスタイルデザイナーの須藤玲子氏と建築家・著述家のナオミ・ポロック氏が日本と米国から二元講演、10月は版画家の吉田亜世美氏による木版画の解説、11月には、デービッド・アトキンソン氏が、日本の寺院や国宝の修復作業を行う会社の外国人社長としての視点から日本の文化政策を語りました。

会員の参加者数は常に100名を超え、従来の対面の月例会の平均参加者数を大きく上回りました。会員の参加も増えて、会員間の交流の場としても重要性を増しています。バーチャルの講演会シリーズは内外に好評でしたが、12月に日本外国特派員協会で開催されたハイブリッド月例会では、華やかなサンバのダンスを間近に見る機会を得て、対面で集うことの喜びを実感することができました。CWAJのオンライン講演会とはなっても参加できますが、任意でご寄付をお願いしています。



写真上はスピーカーの上野千鶴子氏、アリス・ゴードンカー氏、写真下はサンバダンサーのマーク・朋子氏・原田由美子氏・森千里氏の皆さん

